県審査出品作文



2人の弟が大切と哲也さん。「弟がいれば 何も感じないけど、いないと寂しいです。お にごっこんどたくさん遊ぼうね」。

かと思うほどぐったりしている前一番下の弟が、入いてしまいました。びょう気の名前は、はいえんです。ほかとろんとして、もうだめ目がとろんとして、もうだめ

和小学校三年

いるので、弟といると、とてへんてこな事をやったりしてへんてこな事をやったりです。では毎日がけんかの山です。では一角は、二才年下です。弟と

美沙さん(中屋敷)

りがとう」。

母が「皿洗いてつだって。」からです。それなのに、私はす。母は、私を生んでくれたす。母は、私が上切にしたい人は母で

ていたら、とてもたいへんな私は休みの日に母の仕事を見ブンの仕事も毎日いそがしく、

家族が一番ですという美沙さん。「お母さ

私の大切にしたい

悠里

れた顔をします。

セブンイレ

そうすると、母はすごくつか てしまったことがあります。

と言ってもやらないで困らせ

んと一緒に料理を作るのが楽しい。いつもあ

なりたがるのでやらせてあげ家族ごっこでは、お姉さんに

も楽しいです。

妹とは大のなかよしです。

弟は、ニオF、・・・で、大大大の大すきです。しょに考えてくれたりするのしょにくれたりするのしょになった。

いてくれたり、問題をいっの小さなころの事をおぼえて

次はお母さんです。私でさしい数も山もりです。私がさしい数も山もりです。ん、おこる数は、山もりです。

0

んと、おば たい人は、 わたしが

、おばあちゃんとおじい人は、お父さんとお母さたしが一番たいせつにし

わたしの体といのちは、お間には一人一人に、いのちが間には一人一人に、いのちがいます。 なぜかというと、人

かったし、先生にも会えませんでした。 わたしを生んでんれたお母さんにはとてもかんしゃしています。おじいかんしゃしています。お母さんが生んでくれたおかげで、いろんな友だちや先生に会えいろんな友だちや先生にも会えませ

先生と友だちと妹

母さんとお父さんからもら

かったら、友だちにも会えなし、わたしが生まれていなかったなぁと思いました。もました。わたしは生まれてよ

お母さん私を生んでくれてあしいことがいっぱいあります。ました。学校へ来るたびに楽

りがとうございます。

滋野小学校三年

美沙

次はお母さんですん、おこう 、

くれるので、大すきです。時々夜に馬になってとばせてもない時もあります。でも、ていて、休みが一週間に一回

時もあります。でも、 休みが一週間に一回

いい二ひきのねこもいます。まっ黒と、きじとらのかわます。

思っています。 取っています。 私は、このおもしろい家族を、

人とのつながりは、と弟です。

わたし

哲也

ぼくの大切な人は二人の弟

びょう

三日目ぐらいからさみしくてうれしいと思っていたけど、なくなって、いっぱいあそべはじめは、うるさい弟がい した。は一週間も帰って来ませんで お母さんと弟

そのヨッう、これは弟をはなすと弟が泣いさんは弟をはなすと弟が泣いる。お母

す。

な、えがおが大すきでが、やっぱりぼくは、弟たちが、やっぱりぼくは、弟たちずぎておこられてばかりですすがです。 るよ。」と言ってあげました。おして、「ぜったい帰ってくんして、「ぜったい帰ってくていました。ぼくも本当は泣 元気になって下の弟が帰っ

子どもたちが素直な 気持ちで表現してくれました。

テーマは「わたし(ぼく)の大切にしたい人(こと)」

東信地区審査会に8名が出 長野県有線放送小学生コンクー 小学生放送コンクー そのうち県審査 1名が選ば

れまし

は

品品

の大切にしたい人(こと)」。年のテーマは「わたし(ぼく)り組んでいただきました。今 協会が主催となり、 るものです 今回、 長野県情報ネッ 市内の5小学校で取 行ってい

分のまわりを見つめなおし、 子ども達は、自分自身で自

放送では、各小学校から選ばれた皆さんの作品を紹介しましたが、ここでは7月14日に行われた市の審査会で選ばれ、有の皆さんの作品を原文のままでご紹介します。

て審査した結果、冨岡哲也さ んが県審査へと選ばれました。 また、東信地区審査会におい

クのお知らせ



^{₺₺ か} 百香さん(西宮 伝田

おばあちゃんが大切な百香さん。「いつも 遊んでくれるおばあちゃん。いつまでも元気 でいっぱい遊んでね」。

私の大切にしたい人 北御牧小学校三年

お父さんは、 家族です。

いつもはたらいお父さんです。

私が一番大切に 紫苑さん(八反田)



家族が大切な紫苑さん。「家族が全員 そろう日曜日が大好き。どこに行くのか が楽しみ。『家族には本当にありがとう』 と言いたいです」。

が 津小学校二年

かれたな。しんどいな。」と言いれたな。しんどいないら、いつもいっぱい、かれたな。しんどいな。」と言いながら、いつもいっぱい、わたしとあそんでくれます。おそんでいてけがをすると、おばあちゃんは、年をす。おばあちゃんは、年をす。おは、わたしがよろこぶとおいているから、「はぁーつってきてすぐに、けがにくすると、かんは、中をすると、いっているから、「はっという」

おばあちゃんで

おばあちゃんが、「よくなっかたたたきをしてあげます。いこえで言うときは、わたしは、 してくれる、おばあちゃんでもわたしのことをしんぱまにけんかもするけれど、 す。わたしが学みつをあげて、 せわをして るときは、 「かたがいたいのー。」と小さおばあちゃんは、たまに ときは、おばあちゃんが、つをあげて、そだてていま いてくれます。

心がほっとします。たよ。」と言うと、か おばあちゃんでいてくれます。た いつも、 わたしは、 あり

市報とうみ第5号(平成16年9月)